

2020年9月3日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

auじぶん銀行 日本サービス業PMI[®]

及び、auじぶん銀行 日本複合PMI[®]

新規事業が一段と減少する中 サービス業は低調な状況が続く

主な動向

事業活動と新規受注数は8月再び減少

従業員数は縮小

購買コストは若干下落

データ収集期間：2020年8月12～25日

8月も引き続き、日本のサービス業でCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)の大流行による影響が見られた。新規受注数が加速する勢いで減少し、事業活動はさらに縮小した。さらに、企業は雇用の決定において引き続き慎重なままだ。インフレ圧力がなく、購買コストおよび製品価格の両方がこの1か月で若干値下がりしている。

auじぶん銀行日本サービス業PMI[®]は、IHS Markitがサービス業約400社からの調査回答を基にまとめたものである。対象セクターには、消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれる。

主要指標はサービス業事業活動指数で、事業活動量が前月比でどう変化したかを示す。数値が50を超えれば全体として前月比で増加したことを、50を割り込めば減少したことを意味する。

8月、日本のサービス業の季節調整済み事業活動指数は7月の45.4から45.0に若干減少し、6月の指数と並んだ。最新の数値は事業活動がさらに減少したことを示したが、現在続いている低迷状況の中で2月の記録的な減少と比較すれば勢いは小幅である。

調査回答企業は、事業活動の減少においては、新型コロナウイルス感染症の大流行による影響が主な原因だと指摘している。また、原因として事業活動に制限があったことや、顧客数の落ち込みを指摘した一部の企業もあった。

サービス業事業活動指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加

家計サービス支出
前年比(%)



出典：auじぶん銀行、IHS Markit、内閣府

8月は、新規受注数も同様に減少した。これで7か月連続の減少となり、勢いは7月より加速している。新規輸出受注は、サービス業における海外需要が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特に大きく減少した。

サービス業では受注数の減少に伴い、雇用も縮小が続いている。従業員数は削減ペースこそ7月と変わらなかったものの8月も減少し、これで6か月連続の減少となった。従業員数の減少にも関わらず、新規受注数と受注残には上手く対応できた状況だ。しかし、受注残の減少するペースは直近6か月で最も小幅だった。

購買コストは過去2か月ほぼ安定していたが、8月は下落に転じた。購買価格の値下がりにおいては、企業の実態を見る限り、人件費の削減が主な要因であることが指摘された。衛生・換気用品など新型コロナウイルス感染症関連の製品への経費支出が増えたという一部の報告があったものの、指数は若干減少した。

コストのインフレ圧力がないことに加えて、売上を確保しようとする企業側の取り組みもあってか、ここ6か月連続で販売価格は値下がりしており、7月とほぼ同様若干下落した。

新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行がもたらした先行き不透明感によって、景況感は低調となり、先月を若干下回った。事業活動の増加と減少を予測した調査回答企業の数ほぼ同数であった。景況感は長期的な平均値より低い。

auじぶん銀行 日本複合PMI®

8月、経済低迷の緩和は続く

8月のauじぶん銀行日本複合生産高指数*は7月の44.9から上昇して45.2となった。変化なしを表す50.0の水準を下回ったままではあるものの、民間企業が新型コロナウイルス感染症の世界的大流行による深刻な低迷から引き続き安定する中、2月以来の高い指数を記録した。生産高においては、製造業よりサービス業で、さらに急速に減少した。

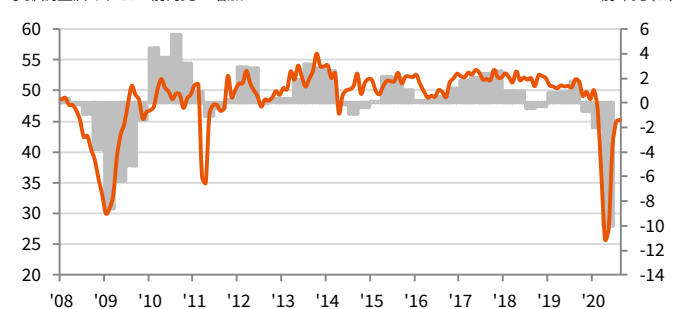
新規受注数は、7月の縮小率よりも加速し、さらに著しく減少した。

新規事業の減少を受けて、企業は6か月連続で人員削減をしている。製造業とサービス業の両方で雇用削減が指摘された。

購買価格は、製造コストに上昇があったもののサービス業で下落したため相殺され、複合指数としては変化しなかった。製品価格は若干減少した。

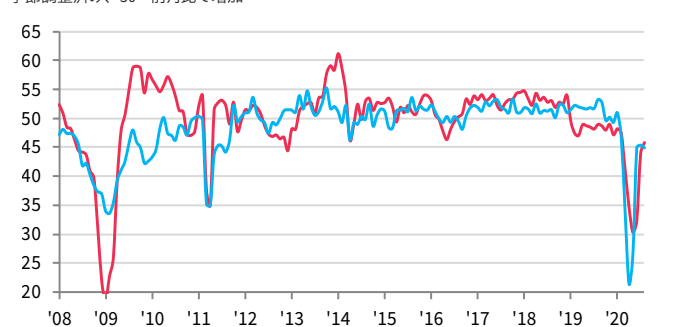
* 複合指数は製造業とサービス業それぞれの指数を加重平均したものである。加重値は、GDP公式データに基づく製造業とサービス業の相対的規模を反映している。日本複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業活動指数の加重平均である。

複合生産高指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、IHS Markit、内閣府

製造業生産高指数
サービス業事業活動指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、IHS Markit

コメント

IHS Markitディレクター、Andrew Harker
による最新調査結果についてのコメント

「新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は、8月も日本のサービス業に影響を与えており、顧客需要が弱く不確実性が非常に多い中、経済回復に向けたこれまでの勢いに歯止めをかけている。

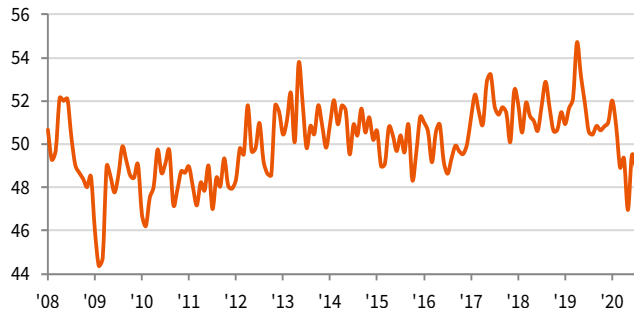
この不確実性は企業の生産高予測にも表れたが、今後1年にわたる景況感においては総じて中立的である。

強い回復の兆候があまり見られないことと今後の状況が明確でないことから、雇用の決定に関連しても慎重な姿勢が見られた。

5月以来初めて、サービス業は製造業より加速する勢いで生産高が減少している。サービス業は新型コロナウイルス感染症の大流行による需要への影響を大きく受けていることが指摘された。成長が回復するかどうかは、企業と顧客が新型コロナウイルスを抑制できていると確信次第だ。」

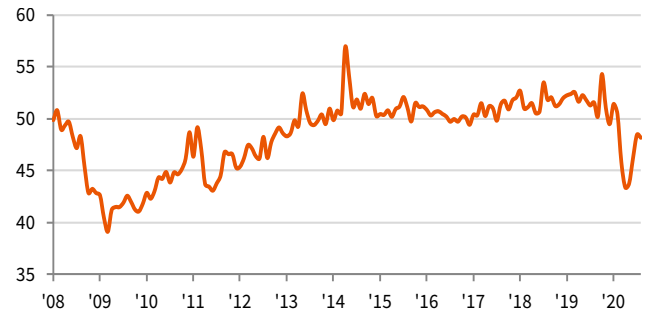
サービス業雇用指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加



サービス単価指数

季節調整済み、>50 = 前月比で上昇



お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行

Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp

Andrew Harker

エコノミクス・ディレクター

IHS Markit

電話: +44 1491 461 016

andrew.harker@ihsmarkit.com

Bernard Aw

プリンシパル・エコノミスト

IHS Markit

電話: +65 6922 4226

bernard.aw@ihsmarkit.com

Katherine Smith

パブリックリレーションズ

IHS Markit

T: +1-781-301-9311

katherine.smith@ihsmarkit.com

調査方法

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、IHS Markitがサービス業約400社からの調査回答をもとにまとめている。対象セクターには消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれます。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数はサービス業事業活動指数です。これは、事業活動量の前月比での変化についての回答から算出する拡散指数(ディフュージョン・インデックス)です。サービス業事業活動指数は製造業の生産高指数に匹敵します。「サービス業PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業事業活動指数の加重平均です。加重値は、GDP公式データに従った製造業とサービス業の相対的規模を反映したものとなっています。複合生産高指数は「複合PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調査要因は必要に応じて修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2020年8月のデータ収集期間: 2020年8月12~25日。

PMI調査方法の詳細は、economics@ihsmarkit.comへお問い合わせください。

PMI(購買担当者指数)

購買担当者指数™(PMI)調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、ihsmarkit.com/products/pmi.htmlをご覧ください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はIHS Markitに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、IHS Markitから事前の承諾がない限り認められません。IHS Markitとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、IHS Markitとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMIはMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。IHS MarkitはIHS Markit Ltd及び/又はその関連会社の登録商標です。

auじぶん銀行日本PMIのスポンサーはauじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専業銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

IHS Markitについて

IHS Markit(NYSE:INFO)は、世界の経済を促進する主要産業・市場のために必須情報・分析・ソリューションを提供するリーディングカンパニーです。次世代の情報・分析・ソリューションを企業、金融機関、各国政府に提供し、経営効率の改善および正しい情報にもとづいた意思決定のための洞察に役立てていただいております。企業・政府機関の顧客数は50,000を超え、ここにはFortune Global 500企業の80パーセントと世界の大手金融機関も含まれます。

IHS MarkitはIHS Markit Ltd及び/又はその関連会社の登録商標です。その他全ての社名及び製品名はその各々の所有者の商標である可能性がありますのでご注意ください。© 2020 IHS Markit Ltd. 禁無断転載。

IHS Markitのプレスリリースを受け取りたくない場合は、katherine.smith@ihsmarkit.comへお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。